

常盤新聞

刊夕日六月八

發行編輯人 川崎文治

印刷所 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地

電話 一四〇番

印刷所 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地

電話 一四〇番

大勉強販賣

合資會社 石材商會

店主 鈴木 木 彌 米

南町火見下

中山岩其他各種

石造土木請負業

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に読める

平町長橋町三五

川崎巡文庫

(申込次第規則書進呈)

安價

女給募集

洋食は向上軒

迅速

平町車場新道通り

(電話 五二三番)

常磐文藝

土用 (雅生)

俺は今日も汗をふきながら

いかにも尊い人間生活の

記録を綴って居るのだ

俺は俺の人間生活を

意義づけるため

真黒になつて

涼風を追ふことを忘れ

汗の乾き盡る迄

シャベルと石炭の香を

一尺は一尺毎に

自分自身の

尺度をきざみ

つけて居るのだ

寄書

米國の態度 K.L. 生

口には正義人道を唱へ、或は優越權を與へて置き乍ら腹底には黒い豫算を組んで東洋を丸呑みにしようとする。つてゐる米國の非道的な行為は之を憎惡せずには置かれない。

以前、廣漠なる米國の未開を開拓するに當り、自國人だけに底、耕地整理をなす事能はずとし、我が隣國の支那政府に提携援助を求め支那移民の歡待を約し、支那政府にては之を快諾して移民をドシノ、米國地に送つたのである。

然るに、支那移民が益々蔓延的に蕃殖して優越權を握り、成功の曙光を荷つて地主に成り濟まして居た、之を傍觀した米國側にては俄に狼狽し、支那人に土地委託を獲得されては大變と反抗心を抱き、排支なるものを企て遂に米國地帯より撤退せしめたのである。

より大地主たる米國に於ては到底、自己専有を懇念抱擁は出来ない、其處で物色の結果、日本に對して親密な言致を以て是非、米國に日本人の移民をさせて貰ひたいと齎らした梟が、再び移民増殖と相俟つて支那の繰返しを以て煽り立て排日案の通過を見たのである。

此の意味より推察して見れば米國は、夙に狼力を籍りて目的を達成し、然る後、猿は智能力の鈍い奴と嘲笑して撲滅し、或は飢饉に迫らして放棄して置く、所謂自己の懷中を肥せ、他人は如何なるも自由だと言ふ盲目主義なのである。

若し眞なる正義人道、根本的快感を締結する國であるならば正々堂々たる態度を飽迄貫徹せねばなるまい、それを脱兎した半可通な米國の曖昧舌の聲明を聞くより先づ先鋒を切つた我同胞の協力一致に隨へ差耻感念を濺ぐ所の精神涵養に基くべきであらう (完)

海水浴着!

夏帽子

新荷着

平町四丁目

鶴屋

電話一四〇番

期夏第一步の試み!!!

色のさめない地質のよい

本染友仙モスリン

製造元直接出張大廉賣致

しますから御批評旁々御

一覽下さい

期日(八月三日迄)

五日間

場所 平町四丁目 協通

モスリン友仙製造問屋

餅田商店

楽しい團樂に

食後のコーヒー

コーヒ ハ「松木屋」の品に限る

粉末コーヒ 一罐入四十錢

四半ポンド コーヒ 卅五錢

(御便利な) コーヒ 卅五錢

入角砂糖 百々

平町四丁目

ヤトモツマ

番四一二話電

三一四六臺仙替振

自動車

御料理は

金子亭

平、四倉間 一人前 金五拾錢

平、四倉間 貨切り 金五拾錢

四倉間 間 一人前 金貳拾錢

海氣館

平町公園 (電話二三〇番)

御料理 金子亭

御旅館 金子亭

山古印醬油

美味

經濟

鹽屋本

元造 鹽屋本

店本屋鹽

番七二話電

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

錦 格 拂込 時價	
磐城銀行	五〇〇
平銀行	五〇〇
磐越銀行	一一五
磐城銀行	一一五
磐城銀行	一一五
田村實業	一一五
四倉銀行	一一五
農工銀行	一一五
同 新	一一五
百七銀行	一一五
同 新	一一五
七七銀行	一一五
郡山電氣	一一五
同 新	一一五
只見川電	一一五
植田水電	一一五
好間水電	一一五
磐城製菓	一一五
平信託	一一五
磐城製菓	一一五
植田物産	一一五
平製水	一一五
好間軌道	一一五
入山新	一一五
小田炭礦	一一五
磐城炭礦	一一五
同 新	一一五
磐城セメント	一一五
同 新	一一五
平運送	一一五

平町田町 電話三三二番

丸登株式会社

川添房二郎

水道敷設料軽減は 至難な事でない

伊坂町長本社の主張を容認 中流以下は頗る幸福

専用栓或は計量栓の如き自家用水道敷設料軽減に關する本社の主張は屢報の如くであつて此主張の貫徹するや否やは水道普及の上にも甚大の關係を有する事であり且つ水道を引きたくも引けなかつた無産者にして今後自家用の水道を敷設せんとする場合に當り頗る負擔が輕くなるのであるから社會政策上からも看過し難きものとして各方面の注目を惹いて居るが右の主張に對して伊坂町長は語る『水道普及に關して意を注がれる貴社の主張は近來出色の文字として自分も熱心にはそれを讀んで居ますが殊に敷設料軽減に就ての御意見は充分に首肯される点があり大いに參考となりました、敷設料月賦期間の延長及び其利息の免除は、現在の經濟状態に照し合せて至難な事とは考へられませんか尙ほ研究した上で採用の方針を定めませう、而し夫れにしても充分力のある有産者迄が左様な恩恵に浴せねばならぬと云ふ事は反つて公平を欠く嫌がありますから生活状態に依つて中流階級以下と目される人々にのみ其事を當て宿める様にし度ひと思つて居ます』

小名濱上空 飛行機飛ぶ

來る十日に

千葉縣立川飛行場の立川旭川間の縦横飛行は十日決行の筈であるが航路は海岸線を水戸に出て本郡小名濱町の上空をかすめて仙臺を經一直線に旭川へ向ふと

石城 夏蠶良好

目下五齡期

石城郡に於ける夏蠶は好晴の爲め經過良好で目下五齡期で一週間後には上簇すべきが一般に桑不足を來してゐると

海に來る惡漢

行かけの駄賃 に平町を荒す

暑さは日増に厳しくなるので海岸に押寄せれる多數浴客が何萬と敷へられる之を機會に所謂浴場荒しを本業とする惡漢が目光を射せ隙を窺つてゐる之に就て平署吉田刑事部長は語る『當町は海岸町から多少離れてゐるが往復する關門ともいふべく其途事犯人等は當町に立寄り行かけの駄賃的に市内に宿泊して荒してゆく事は

例年の統計に現れてゐる通りで今年も大に之等犯罪を未前に防止すべく努力してゐるが一家族打揃つて海濱に遊びにゆきし留守を窺ふ犯人も多々あるので當署で

蘇生の雨が來て

農作物は持ち直した

石城分場小埜技手語る

蘇生の雨が來た、これで連日九十度以上の炎暑續きに殆ど狂死せんとした平町民も蘇へつた、殊に農村は池水河水悉く枯れて到る處に水喧嘩を起してゐたが今は

雨降り

の祝ひ酒に舌鼓を打つてゐよう一昨日來の降雨が如何に農作物に取つて貴重であつたかに就き農事試験石城分場の小埜技手は語る『本當に救れたやうな思ひがします土用入り以來の日照續きは農作物の發育にとつて非常に

平屠場落成

工費二萬五千

平町鎌田町の屠殺場は餘り不完全なものでこれを解散し平屠場株式會社を堤町裏に創立二萬五千圓で落成し縣衛生課より許可指令あり次第開場する手はずであるが平町で近年屠殺する牛豚馬

カテイラン

つはりの妙薬

婦人が妊娠して三四月頃からつはりといふまじり大そう氣分が悪しく、くるしくて醫師のお薬もきよめのない、いやな氣持になりにますとき、古いカマド(俗

常磐片々

吉田禮次郎君がゴマ化し會社の提灯持ちをする氣が知れない子
不思議はないさ名前がヨシタラ零ジャロウだものゼロになつてはアブ蜂取らずだから子
スルト矢張り○の關係カナ
ザット、シヨウタロウと思ふのサ
成程そうか人をバンキチにするのも程がある

マンドリン 合奏 曲目

行進曲其他

マンドリン合奏大會は既記の如く九日藤田裁縫女學校にて開催される筈であるが當日の曲目は左の通り
△行進曲(シンブロン、トネルを通過して)アルフェル作△四重奏(カブリッショ、コンチエルト)アリエンゾ作△歌劇(ラ、トラビアタ)ヴェデイ作△キターン部旅(團行進)ブツケー作△圓舞曲(學生生活)ワルドテイフル作△東洋風旋律(キヌメツト)マーケ作△マンド

新設決定した 職 紹介所費

概算千八百圓

既報昨日の平町會にて新設決定された職業紹介所は九月から開設の運びに至る筈であるが三月迄の費用概算は千七百九十七圓八十四錢であつて其内譯左の如し
給料九百八十圓、雜給百五十圓、需用費六百六十

は數日前から舉動不審な者が徘徊し居れば一應連行取調る筈であるが各人も大いに氣を付け萬一盜難に遭つたら逸早く當署に届出て貰ひたい』

不平受付

投書歓迎

臨時列車に就て 三日の日曜に四倉から平へ歸る爲め午後五時廿分四倉驛發の臨時列車に乗らうとしたのですが下り線に列車が停車して居た爲め仙臺方面へ行く流車と思つて平氣で居ましたら夫れが自分達の乗る

募集

文藝其他一般投稿を募集します

列車であるとの事に發車間際に狼狽して跨線橋を渡り辛らうじて間に合ひましたセメテ列車の中央部に行先と札を下げてでも置けば夫れ程狼狽せずとも濟んだかと思はれます(避暑客)
▼鎮目平驛長の答をそら上り列車が下り線に停車する様な事はないのですが夫れは多分線路に故障でもあつた爲めではないかと思はれます、夫れから行先を示した下り札は早速つける事にしま

れを入れておいて冷たくして召し上りますと心よく召し上る事が出来ます、冷蔵庫のないうちではビンへ入れて氣をつけて非戸の中へつるしておいても冷たく頂く事が出来ます、これはある實際の方で非常に苦しんでゐた方のために見たら、ふしぎにもすぎなめが有つたさうです

平第一臨海學校

第三信

四日目、水産組合事務所には高く暴風警報が掲げられた、波が非常に高い生徒をつれて海に出たが危険言ふばかりない。砂原で野球や砂いぢりをさせる外なかつた。

晝食は鯉のおサシミに一同舌鼓を打つ今朝あがつたイキのよいところを五本平げる、お鉢の底をトントンにする

午後には浪が益々高くなつた、安田さんなどのお勧めで仁井田浦で水泳を練習する事になつた、四倉校友會の御好意で舟を借りたり、たき火をして貰

新派 君國劇

此券持参の方に 限り入場料五錢

帝國館